



いよいよ受験の年を迎えました！

あけましておめでとうございます。いよいよ「受験」という、大きな勝負のある年を迎えました。それぞれの目標に向かって、大きく一步を踏み出さなければなりません。冬休みの間にしっかり勉強し、準備ができていると思います。あとは、今まで頑張ってきたという思いを自信に変えれば、成功への道が拓けると思います。

3学期はとても慌ただしいです。来週実力テストがあり、再来週に学年末テスト、その間に私立高校・専修学校受験に向けての面接練習があります。前回の進路だよりに載っている予定をもう一度よく確認をしながら、受験に向けての準備を進めていきましょう。とにかく、あっという間に3学期は過ぎていきます。その限られた期間で、自分のできる最大限の努力を続けてください。その姿を応援していきたいと思います。

公立推薦希望書締切間近！！

公立高校推薦受検希望書の締切が迫っています。希望書をもらった人は自分が希望している学校の実施要項をきちんと見ましたか。特に「**ア 運動、文化、芸術、奉仕活動等の諸活動のいずれかにおいて優れた能力・適正及び実績について**」の項目では、学校によって内容が変わります。該当がない場合はアの推薦での資格がありません。実施要項をよく読んで記入してください。複数の項目に該当する場合は、複数記入しても構いません。また、「**イ 恵まれない環境について**」の推薦を希望する場合は、進路説明会や以前配付したプリントと照らし合わせて、申請に必要な書類も一緒に提出してください。

提出期限は1月11日（火）16：45です。期限厳守をお願いします。

進路希望調査について

本日、第5回進路希望調査を配付しました。今までの内容と少し違うので、注意してください。

- ①私立高校・専修学校については、既に出願が決まっている学校を書いてください。
- ②公立高校については、私立高校・専修学校の可否によって変わる場合があると思います。下の例を参考にしてください。

（例：第1希望〇〇高校 第2希望△△高校を希望しているが、
私立高校の◇◇高校が不合格の場合、第2希望を別の▲▲高校に変更
または、第1希望を▲▲高校、第2希望を□□高校に変更）

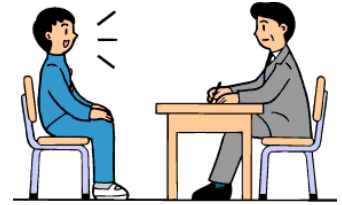
- ③全体の希望順位を記入してください。

（例：第1希望公立の〇〇高校、第2希望私立の◇◇高校、第3希望公立の△△高校として、
第2希望私立の◇◇高校を合格した場合、公立は第1希望の〇〇高校のみを受検することに）

公立高校の組み合わせについては、できる限り可能性のあるものは全て書いておくとよいと思います。担任の先生とも、よく相談をしておいてください。締切は1月13日（木）です。

面接に向けて その2

受験に向けての面接練習が始まり、担任の先生以外の先生が面接官となって行う面接練習があります。今回は、面接室への入室の仕方、退室の仕方について掲載しました。よく読んでおきましょう。



<入室の仕方>

- ① 返事の仕方…受験番号を呼ばれたら、「はい」と大きな声で返事をした後、立ち上がる。
立ち上がりながら返事をしないように気を付ける。
- ② ノックの仕方…面接室の戸の前に立ち、3回または4回たたいてノックする。
ノックする前に、深呼吸をするなどして、心を落ち着かせる。
- ③ 入室するとき…「どうぞ」と言われてから「失礼します」と言って、戸を両手で開ける。
しきいをふまないように入室をし、戸を両手で閉める。
- ④ 戸を閉めてから…戸を閉めたら、面接官の方を向いて、軽く一礼する。
面接官が多い場合は、中央の人に向かって一礼する。
- ⑤ 椅子まで…正しい姿勢で、いすの左側まで落ち着いて歩く。
上ぐつを音を立てたり、ダラダラ歩いたりしないようにする。
- ⑥ 椅子に着いたら…椅子の左側に来たら、面接官の方を向き、
1（頭を下げる）→2（そのまま）→3（頭を上げる）
のリズムで、心をこめて一礼する。
- ⑦ 着席する…「どうぞ」と言われてから、「失礼します」と言ってから着席する。

<退室の仕方>

- ① 面接が終わると…「以上で面接を終わります」と言われたら、立って軽く一礼し、
「ありがとうございました」と言う。
- ② 深く一礼する…着席のときの逆の順序で、いすの左側に立つ。
「失礼します」という気持ちをこめて、深く一礼する。
- ③ 出口に向かう…ゆっくりと出口に向かい、戸のところで面接官にさらに一礼する。
- ④ ドアの開閉…ドアを両手で静かに開けて、外に出る。
ドアを両手で静かに閉める。

どの項目を見ても、普段の生活からきちんとしなないとはいけません。例えば、職員室に入室するとき、「失礼します」と先生方に聞こえるように言っているのでしょうか。また、授業の始まりや終わりの「礼」の仕方はいかがでしょうか。その場だけ取り繕うとせず、普段からきちんとしておくことが大切です。